

## <6月定例研究会の報告>

平成30年6月30日（土）、当研究所で定例研究会を行いました。  
研究会のテーマは基礎学習です。  
午後5時から研究授業、5時30分から研究協議を行いました。

研究授業者 : 有村美恵子（つばき教育研究所スタッフ）  
対象児 : 特別支援学校（視覚障害） 小学3年生  
テーマ : 基礎学習  
学習内容 : 「延滞」「大小の弁別（導入）」

### I、指導経過

#### 1、学習開始時の様子（平成27年10月～）

平成27年10月から月1回1時間の学習を開始した。遠方からの通所で、本研究所での学習時間が多く取れないため、家庭でも行いやすい課題や教材を選び学習を進めることにした。

また、学習課題や教材が多いと混乱する様子も見られたので、課題や教材は数を出来るだけ少なくして、呈示はわかりやすく簡潔に伝えるよう心掛けた。以下は現在まで行った課題である。

- (1) 手指の操作性を高める学習（ボールを取る→ゴルフボールを取る→ビー玉（大）を取る）
- (2) 呈示板から鈴を取る学習
- (3) 器にボールを入れる学習
- (4) 方向の学習
  - ①筒抜き（1方向、2方向、3方向）
  - ②スライディングブロック（1方向、2方向）
- (5) 形の弁別の導入（○△□の型はめ 1対1対応）
- (6) 順序の学習（左から順番に筒を抜く。3本）
- (7) 弁別学習（正選択肢と誤選択肢の二つの具体物を触り、正選択肢の具体物を選ぶ学習）


#### 2、現在の課題



- (1) 順序の学習（左から順番に○の形を入れる。5個）
- (2) 未測量の学習（○の大小の弁別の導入）
- (3) 同じの概念形成の学習（正選択肢と誤選択肢の二つの具体物を触り、見本と同じ正選択肢の具体物を選ぶ）
- (4) 延滞の学習（器に入っている玩具を取る。）
  - ①器一つ
  - ②器二つ

※ 現在の学習は、物の触り方や各課題のやり方を教えている段階なので、すべて援助をして学習を進めている。また両手が出ることもあるため、右手は働き手、左手は支え手として使うことができるように援助をして学習を進めている。

### II、本時の学習

#### 1、学習課題・ねらい・教材

学 習 課 題	ね ら い	教 材
(1) 順序の学習	・左から順番に○の形を入れることができる。	 ○の形（直径3、8cm）5個

<p>(2) 大小の弁別 (導入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小の○の形を小のはめ板に入れることができる。</li> <li>・大の○の形を大のはめ板に入れることができる。</li> </ul>	 <p>⓪の形 (直径3、5 cm) ⓫の形 (直径7、5 cm)</p>
<p>(3) 延滞の学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの器の片方に入れた玩具を、取り出すことができる。</li> </ul>	 <p>器 (直径10 cm) 2個 玩具</p>

## 2、展開

学習項目	学習内容	留意点
1、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめます。」と一緒に言って頭を下げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に言おうとする様子が見られた時はすぐに褒める。</li> </ul>
<p>2、順序の学習</p> <p>① 1 試行目</p> <p>② 2 試行目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「順番の学習をします。」と言って、順序の教材 (はめ板) を呈示する。</li> <li>・はめ板を触る。</li> <li>・左から順番に○の形を5個入れる。</li> <li>・はめ板の右端を触り「おわり」と言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○の形を入れる手が早くなった時は「ゆっくり」ということばかけをして早くならないように援助をする。</li> </ul>
<p>3、延滞の学習</p> <p>① 利き手側後出し</p> <p>② 利き手側先出し</p> <p>③ 反利き手側後出し</p> <p>④ 反利き手側先出し</p> <p>⑤ 反利き手側同時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おもちゃどっちの学習をします。」と言って、器を二つ呈示する。(1方のみ玩具が入っている。)</li> <li>・左側の器は左手で、右側の器は右手で触ることができるよう援助を行う。</li> <li>・どちらかの手で玩具を触った後、援助をして手を机に戻す。</li> <li>・「おもちゃどっち、ください。」のことばかけで正答の器から玩具を取り出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器を半利き手側に呈示した時に、左手で玩具を取った場合には、次の試行は同じ Step にして、利き手で取ることができるよう援助を行う。</li> </ul>
<p>4、大小の弁別</p> <p>選択肢二つを、時間差をつけて呈示</p> <p>※資料1参照</p> <p>① Step 1</p> <p>② Step 2</p> <p>③ Step 3</p> <p>④ Step 4</p> <p>⑤ Step 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小さいまる、大きいまるの学習をします。」と言って、はめ板を呈示する。</li> <li>・「小さいまる、大きいまる、二ついれます。」と言って小の凹図形を左手で、大の凹図形を右手で触るように援助する。</li> <li>・「こっちは小さいまる」と言って、小の凹図形を右手で一緒になぞる。</li> <li>・「こっちは大きいまる」と言って、大の凹図形を右手で一緒になぞる。</li> <li>・呈示された大小の形をはめ板に入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばかけが思考の妨げにならない様に留意する</li> <li>・大小の形が、はめ板にぴったり入ったことを確認する。</li> </ul>
6、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おわります。」と一緒に言って頭を下げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで頑張ったことをほめて伝える。</li> </ul>

**【資料1】**

第3段階 選択肢二つを時間差をつけて呈示	
1、《左手（支え手）の位置》 左手移動あり	2、《左手（支え手）の位置》 左手移動なし
<p>Step 1</p>	<p>Step 2 小の形を真下に後出して呈示</p>
	<p>Step 3 小の形を斜めに後出して呈示</p>
	<p>Step 4 小の形を真下に先出して呈示</p>
	<p>Step 5 小の形を斜め下に先出して呈示</p>

**Ⅲ、研究協議**

研究授業終了後、研究協議を行いました。特別支援学校の先生方、特別支援学級の先生方、障害支援施設の職員の方などの参加がありました。

初めに授業者から補足説明をし、その後、質疑応答を行いました。参加された方の質問に理事長の宮城が教材を使用しながら説明を行いました。

**〈授業者からの補足説明〉**

- ・ 順序の学習は3本の筒抜きが終了したので、現在5個の丸の形を入れる学習を行っています。
- ・ 延滞の学習は、玩具が右側の器にある時は右手で、左側の器にある時は左手で取る人が多い。左右の位置を確認した後、次の試行は右手で取るように促し学習を進めました。

**〈参加された方の感想〉**

- ・ 学校の個別の時間に延滞の学習を行っている。呈示の仕方がとても参考になった。間違えさせない関わりが大切だとわかった。
- ・ 視覚障害のお子さんに、延滞の学習をどのように教えたらいいのかがよくわかりました。お子さんもとてもよく考えて課題に取り組んでいたと思います。
- ・ 大小の弁別の学習の時、呈示のステップが進むにつれて、小さい○と大きな○の違いに気がついてきた様子が見られました。呈示のステップが大切なことがわかりました。

**〈参加された方の質問〉**

- ・ 延滞の学習を始めたのですが、箱に手を伸ばしても玩具を取り出しません。どのようにしたらいいでしょうか？

↓

子どもの好きな玩具を使います。「取ってね」のことばかけとともに、援助して箱の中の玩具と一緒に取り出します。このように繰り返すことで“箱の中の玩具を取る”ことを教えます。

- 延滞の学習で利き手だけで取るように援助しないのはなぜでしょうか？

↓

- 現在、右手のみで左右の器の位置を確認しようとするとう混乱する様子が見られます。両手で左右の器の位置を確認すると、左右どちらの器に玩具を入れても取ることができます。  
今後、学習が進み左右の位置が明確になってきたら、利き手のみで玩具を取るよう学習を進めたいと考えています。

#### <まとめ～理事長宮城～>

- 視覚障害があるお子さんの場合では、触感覚を用いて弁別を行っていきます。そのため、触感覚を向上させ、触運動をコントロールし、触空間を形成する学習がとても大切です。今後は「同じの概念形成」「形の弁別の学習」へと進めていきます。より広く外界を認知し、より豊かに外界に働きかける力を、これらの学習を通して養っていきます。